

クラブ便り

☆浮き栈橋の更新完成☆

古川 宗寿

以前にあったブルーの栈橋は私の会社にあった旧型の売れ残りをクラブに寄付したものでした。ところが3年ほどまえに桑野がお客様に納めていた同型の栈橋が壊れて修理を頼まれてしまいました。既にこの旧型の修理部材の在庫が会社にはありません。どうしようと悩んだ末の苦肉の結論が瀬田 ROW に寄付した栈橋を回収、リフォームして修理用材に使うことになりました。

一旦寄付したものを回収するとは申し訳ない。ということでそれより大きくて使いやすい代替栈橋を作ることで勘弁してもらい、費用は出来るだけ安くなるようにクラブ員の協力を頼む計画を立てました。その計画とは鉄枠を組み、その中の浮体はごみとして廃棄されるはずの発泡スチロール屑を詰める。買えばスチロールは結構高価なのが理由です。天板は廃材の人工木材を貼る。実際はエルゴの梱包に使われていたスチロールを会社から、不足のほとんどは電器会社に勤務する下村氏に冷蔵庫の梱包材屑を持ってきてもらいました。梱包屑なので形状が凹凸で隙間がどうしても出来ます。そこで設計計算では占積率を0.6としました。つまり、詰めたスチロールの隙間、空間が4割未満でないと予定通り浮かないことになります。最初は高校生会員が頑張ってくれて、みえちゃんずの皆さん、全員集合日にと皆さんが協力していただきました。0.6の数字に脅迫されながらの作業だったと聞いています。実は既設の大きな方の栈橋も何年か前に同じ方法で作りしました。その時は魚のトロ箱を誰かがたくさん持ってきてくれました。その時は占積率を0.5以下と予想してしかも水を吸ってその内に重くなると仮定したため浮きすぎた経験が今回は活かされています。12月18日(土)にみんなでピラミッドの石材運びのような方法で水路に浮かべました。本当に浮くやろうか? バンと水に落ちて無事に浮いたときは思わず拍手が起こりました。以前の1.5倍の大きさです。瀬田ローの自前で何でもやってしまうノウハウと実行力はすごいでしょ!

